

別紙2-2 科目・カリキュラム一覧(見学等実習を行う場合)

科目・カリキュラム番号	科目名	カリキュラム名	規定時間数	うち通信形式で実施できる上限時間	対面で実施する時間	通信形式で実施する時間	演習に充てる時間(22時間以上)	合計履修時間数	履修日	講師	備考
1	職務の理解		4	0	4	0		4	平成25年4月1日	羽生むじなもん	
2	介護における尊厳の保持・自立支援		9	7.5	2	7.5		9.5	平成23年4月2, 3日	越谷ガーヤ・川越ときも	
3	介護の基本		6	3	4	2		6	平成25年4月10日	羽生むじなもん	
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9	7.5	6	3		9	平成25年4月11日、12日	北本とまと・杉戸びかる	
5	介護におけるコミュニケーション技術		6	3	3	3		6	平成〇〇年〇〇月〇〇日	越谷ガーヤ	
6	老化の理解		6	3	4	2		6	平成〇〇年〇〇月〇〇日	埼玉 又ウ	
7	認知症の理解		6	3	4	2		6	平成〇〇年〇〇月〇〇日	埼玉 又ウ	
8	障害の理解		3	1.5	1.5	1.5		3	平成〇〇年〇〇月〇〇日	鴻巣ひな	
9	基本知識の学習	介護の基本的な考え方	2	2	2	0		2	平成〇〇年〇〇月〇〇日	羽生むじなもん	
10		介護に関するところのしくみの基礎的理解	5	5	3	2		5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	川越ときも	
11		介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	5	5	0		5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	北本とまと	
12	生活支援技術の講義・演習(この項目の合計45時間のうち半分程度22時間は演習を行うこと)	生活と家事	5	0	5		3	5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	社会しゃきたま	
13		快適な居住環境と介護	3	0	3		1.5	3	平成〇〇年〇〇月〇〇日	越谷ガーヤ	
14		整容に関連したところからからだのしくみと自立に向けた介護	5	0	5		3	5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	秩父りゆうごん	
15		移動・移乗に関連したところからからだのしくみと自立に向けた介護	11	0	12		6	12	平成〇〇年〇〇月〇〇日	羽生むじなもん・越谷ガーヤ・秩父りゆうごん	
16		食事に関連したところからからだのしくみと自立に向けた介護	5	0	5		3	5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	志木あら	
17		入浴・清潔保持に関連したところからからだのしくみと自立に向けた介護	5	0	5		2.5	5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	社会しゃきたま	
18		排泄に関連したところからからだのしくみと自立に向けた介護	5	0	5		3	5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	秩父りゆうごん	
19		睡眠に関連したところからからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	0	4.5		3	4.5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	羽生むじなもん・社会しゃきたま	
20		死にゆく人に関連したところからからだのしくみと終末期介護	1.5	0	1.5		5	1.5	平成〇〇年〇〇月〇〇日	北本とまと	
21		生活支援技術演習	介護過程の基礎的理解	2	0	2		2	平成〇〇年〇〇月〇〇日	羽生むじなもん	
22	総合生活支援技術演習		10	0	10		10	平成〇〇年〇〇月〇〇日	羽生むじなもん・秩父りゆうごん・北本とまと		
23	振り返り		0	0							
24	見学等実習	特養等施設見学等実習	6	0	6	0		6	平成25年5月30日、6月1日	横瀬ゴロー・川野カワシロウ・加須こいのぼりん	12から20の項目を6時間、職務の理解2時間、振り返り4時間
25		訪問介護事業所やデイサービスでの見学等実習	6	0	6	0		6	平成25年6月15日、16日	越生うめりん・毛呂山もろ丸・朝霞彩夏	
	修了評価		1	0	1	0		1	平成〇〇年〇〇月〇〇日	羽生むじなもん	1時間程度の筆記試験を行う
	合計		131	40.5	109.5	23	30	132.5			

1から8まで1講師3科目程度

9から20まで1講師3科目程度

1から20まで担当した講師が行う

通信時間は40.5時間未満になるようにしてください。

演習にあてる時間は22時間以上になるようにしてください

合計で131時間以上になるようにしてください。

(注1) 講義と演習を一体的

(注2) 別紙12-1、12-2「介護職員初任者研修(演習)の評価の指針」を踏まえて実施すること。

(注3) 「9～22. ところからからだのしくみと生活支援技術」には、介護に必要な基礎的知識の理解の確認と、生活支援技術の習得状況の確認を含む。

(注4) 修了評価は、筆記試験により実施すること。

(注5) 「1. 職務の理解」及び「23. 振り返り」において、施設の見学等の実習を活用するほか、効果的な研修を行うため必要があると考えられる場合には、他のカリキュラムにおいても施設の見学等の実習を活用することも可能。

(注6) 各カリキュラム内の時間配分については、内容に偏りがないように、十分留意すること。